東南アジア研究センター
1967年度第2・四半期報告

1967年7月から9月にいたる1967年度第2・四半期における東南アジア研究センターの活動状況をとりまとめ報告する。

現地調査研究としては，福井捷朗助手（東南ア研）が**バンコク連絡事務所**の所長代理として勤務するとともに，タイ国米穀局試験場で植物栄養学の実験研究を進めている。またセンターにとってはじめての文部省海外学術調査研究として，芦田譲治教授（理学部長）を代表者とするタイ・マレーシア生物相調査のチームが8月現地に出発した。参加者は芦田学部長のほか，平野実教授(教養)，田川基二助教授(理)，岩槻邦男助手(理)，福岡誠行調査補助員(理)，清水建美助教授（信州大・教養)，北川尚史助教授（奈良教育大)，上野俊一技官（国立科学博物館)，および小山博滋技官（国立科学博物館）の9名である。これは1965年度のタイにおけるシダ調査の発展である。

養成計画としては，クメール語の研修のため1カ年プノンペンに滞在した坂本恭章助手（東京外大ＡＡ研）が8月に帰国した。

交換計画としては，わたくしが6月，マンチェスターのウラル・アルタイ学会に出席した。また本岡武教授（東南ア研）が7月にタイ，マレーシア，シンガポールに出張し，同地の学者と意見の交換を行なった。つづいて8月に渡米，第27回東洋学者会議のパネル・ディスカッションでわが国における東南アジア研究の現状について報告するとともに，会議終了後，コーネル大学を訪れ，同大学の Southeast Asian Studies Program の現況を視察した。

出版計画としては，Reports on research in Southeast Asia, social science series No. 1; Kiyoshige Maeda, *Alor Janggus, a Chinese Community in Malaya* が出版された。これは社会科学関係の正式英文報告書の第1号である。さらに，『東南アジア研究』第5巻第1号および年刊所報の英文版 *Center for Southeast Asian Studies*, IV の刊行をみた。

なお，1967年度の部門新設に伴う人事異動として，8月1日づけで石井米雄助教授（東南ア研）は教授に，久馬一剛助手（農）はセンター助教授に昇任，高谷好一研究生（工）が助手に採用された。来年4月からはじまる第2期計画をひかえて，センターの専任教官も充実してきたことを心強く思う。

１９６７年９月

京都大学東南アジア研究センター所長
岩　村　　忍